






産 業

工場で働く人々の仕事

福山は、工業の盛んな市です。鉄を作る大きな工場や、服や織物などの繊維、機械の小さな部品、食料品の工場など、働く人が少ない工場もあります。

機	械		一つの絵は20工場 (380)	
織	維		(186)	
金	属		(223)	
食	料	品		(99)
家	具	・		木 製 品 (79)

〔福山の主な工場の数(統計ふくやま 2019年版)〕

1 繊維工場

市北部の芦田は、今から170年ほど前に、「備後びんご 紘かすり」を織り始めた所です。その後、新市・駅家や府中市などでも織られるようになり、多いときには250もの工場がありました。しかし、今では工場は数えるほどになり、大きな工場から送られてくる糸を染め、機械で製品を織っています。近頃では、デニム（ジーンズの布）などの新しい織物も盛んになっています。



〔デニム製品を検査しているところ〕

綿（外国から）
↓
紡績ぼうせき（糸にする）
↓
撚糸ねんし（糸を2本以上合わせてよりをかける）
↓
染色（糸を染める）
↓
織布しょくふ（布に織る）
↓
デニム製品

〔デニムができるまで〕

福山で、デニムが盛んに作られるようになったのは、なぜだろう。



2 木材・木製品工場

松永湾には、大きな木材が多く浮かんでいる貯木場があります。それらの木材のほとんどはアメリカ、ニュージーランド、カナダなど、外国から船で運ばれてきています。松永湾のまわりには、これらの木材を扱う工場が集まっています。松永は昔から、木を使った製品を作っていた所です。

今から350年ほど前、松永の砂浜を利用した塩田が作られ、塩作りが始まりました。多くの塩を船で北陸や山陰地方などへ運んで売られるようになり、130年ほど前からは、塩を下ろした船に、下駄の材料になる木材を積んで帰るようになりました。ここから松永は、下駄作りで全国的に有名になりました。今の松永では、塩は作られていません。塩田だった所は住宅地になっています。下駄も昔ほど履く人がいなくなり、作る数が減少しています。

しかし、木を扱う技術を生かした工場は、今でも少なくありません。木の皮をはがして丸太にする工場や、板や柱を作る工場があります。松永湾に浮かぶ多くの木材は、ほとんどが家を建てるための材料（建材）に使われています。丸太や建材は大きなトラックで福山市内・市外に運ばれています。



〔外国から木材を運んできた船〕



〔貯木場〕



〔乾燥〕



〔製材〕



この他にも、福山には鉄を作る大きな工場、JFEスチール(株)西日本製鉄所(福山地区)があるよ。詳しくは、【産業】「オンリーワン・ナンバーワン企業」を見てね。